

上海市に日本企業として始めて 独資の工業デザイン会社を設立

有限会社 賀風デザイン事務所

工業デザイン界のマルチクリエイター

南賀風デザイン事務所は1981年に東京池袋で創業して以来25年、一貫して工業製品のデザイン開発を行ってきており、今やこの業界では日本で10指に入る老舗企業と言えるまでになった。

事業内容は、家電、精密機器、音響、医療、育児、健康、農業機械、情報、娯楽、CIなどあらゆる分野のコンセプト・プランニング、デザイン、設計、商品に関わるグラフィックの作成である。

日本の顧客は全て上場企業や業界のトップ企業であるので、独立系のデザイン会社の場合、作成したデザインがそのまま採用され、商品化されることは必ずしも多くはないのだが、同社の場合は別であった。

当初のデザインのまま商品化される確率の高さもさることながら、その業界のリーディングデザインになった商品も多く、グッドデザイン賞を毎年のように受賞してい



数多くのデザイン実績、獲得したグッドデザイン賞

る。

また、2004年7月、上海に上海賀風工業製品設計有限公司を設立した結果、日中合わせたスタッフ総数は20名となり、調査、企画、デザイン、設計、試作は勿論のこと、顧客の求めに応じた金型や量産品の委託生産も可能となり、更にその後のカタログ製作や展示会運営までも手がけることができる。このことから彼等は自らをマルチクリエイターズスタジオと呼んでいる。

上海市からの進出要請

上海進出のきっかけは、2003年11月。古賀社長が上

海の理工系ではトップの同済大学からの要請で、工業デザインの必要性について同大学で講演を行ったところ、上海市科学委員会が注目し、中国デザイン水準の向上のために独資での進出も認められ、開設したばかりのデザイン特区に優先的な場を提供するので、是非上海市に進出して欲しい、と古賀社長に直接要請をしてきた。

古賀社長としても、間もなく開催される北京オリンピック、上海万博を経て中国が世界のマーケットとして飛躍の発展を遂げるであろうし、そこに大きなビジネスチャンスがあると感じ、独資での進出を決意した。

上海賀風の目指すところ

会社設立までには約半年の期間を要したが、工業デザイン分野で日本の独資企業として初めて2004年7月に営業許可証を獲得することができた。

上海賀風工業製品設計有限公司の目指すところは次の3点である。

1. 中国企業からのデザイン開発受託
2. いまだ価格優位にある中国での物作りとそれに絡む貿易業務
3. 中国進出の大手日本企業へのコンサルティング

これらに関する様々な業務は当然日本本社との連携が必要であるため、設立後まもなく上海賀風側のスタッフを日本へ派遣し3ヶ月間の研修を行ったほか、本社スタッフも上海へ出向させる等して、互いの意思疎通を図った。

しかし、中国企業とのやり取りにおいては、契約締結や進行管理など万全の備えを行ったにも関わらずトラブルが度々発生、信頼を裏切られる日々が続いたという。



上海賀風、最初のデザイン開発品

デザイン業という特殊で新しい世界ゆえに中国側にとっても理解に時間がかかるのではないかと思い、中国的信頼関係構築に努力した結果、会社設立から約1年半、上海賀風社はようやく自らの道を歩み始めたと言えるようになった。



上海デザインビエンナーレに出展

丸投げへの反省

会社設立の手続きは同社自身で行わなければならないので、なるべくコストを安くするため日本のあるコンサル会社に全ての手続きを依頼したが、その会社もプロがならず、上海で提携しているコンサルタント会社に丸投げしていたのであった。

そうなる、ただでさえ予定の立て難い中国のこと、2004年5月の会社設立目標が何時になるかも分からなくなってしまい、困って当機構に相談に来られた。

アドバイスにおいて、「正式の手続きを踏んでいれば1~2ヶ月以内には営業許可証が取れるはずだから対外的には余り問題はなので、時期の遅れに一喜一憂することなく、本来の仕事に優先にした方がよい」と話してまずは安心してもらった。

同時に臨時資本金口座の開設や設立後の会計事務所の選択、従業員に対する注意事項等につき色々説明し、上海在住の国際化支援アドバイザーによる現地アドバイス

専門員の視点

会社を必ず作るのだという社長の強い意志と、我々のアドバイスを何度でも受ける勇気、それにアドバイスの内容を素直に聞く柔軟性があったことが、大きなトラブルなしに独資のデザイン会社を設立し、運営することができた要因と考える。

ただ、もし初めの段階から相談に来て頂いていれば、もっと安く且つ予定の期日通りに営業許可証がもらえていたであろう。多くの企業がこの制度を気軽に利用されることを望む次第である。

有限会社賀風デザイン事務所

| | |
|----------|---|
| (日本本社) | |
| 所在地 | : 東京都豊島区 |
| 代表者名 | : 古賀治風 |
| 業種 | : 工業 商業デザイン業 |
| 事業内容 | : コンセプトプランニング、デザイン、設計、商品に関わるグラフィックの作成 |
| 商品内容 | : 家電、音響、医療、育児、健康、等 |
| 創業年 | : 昭和56年(1981年) |
| 従業員数 | : 5名 |
| 資本金 | : 450万円 |
| 年間売上高 | : 1億円 |
| (海外現地法人) | |
| 企業名 | : 上海賀風工業製品設計有限公司 |
| 所在国 | : 中国 |
| 地域 | : 上海市 |
| 事業内容 | : 中国企業からのデザイン開発受託、中国での物作りとそれに絡む貿易業務、中国進出の大手日本企業へのコンサルティング |
| 創業年 | : 2004年 |
| 従業員数 | : 15名 |
| 資本金 | : US\$24万 |
| 投資形態 | : 独資 |
| 年間売上高 | : 300万元(2006年度見込) |

も受けてもらった結果、今後使うことになる会計事務所やコンサルティング会社と非常に安いコストで契約することが出来た。

会社設立までの苦勞を振り返って、同社古賀優美取締役は、「当初日本のコンサルタント企業と契約をして全てをお任せすれば安心だと思っていたのですが、これは大きな間違いで、彼らも中国の会社へ丸投げしていたので

す。そんな時に知った中小機構のアドバイスの中で、役立つ情報を丁寧に教わることができ、次第に道筋が見えてきました。また、知識も増え、自信も出てきました。」と語っている。

その後同社は、進出企業が必ず直面するビザの問題、アパートの問題、従業員管理の問題、個人所得税の問題、本社との契約問題、顧客との契約問題等々、その都度相談に来られるようになり、今では当機構のアドバイスをまるで「駆け込み寺」のように利用している状況である。

(経営支援専門員 清水 英明)